

○事業所名	ドリームズ・21st平安通校		
○保護者評価実施期間	令和8年3月10日	～	令和8年3月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		21
○従業者評価実施期間	令和8年3月14日	～	令和8年3月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもが安心して通所でき、支援全体への満足度が高い	職員間でこどもの事象と関わりの意図を都度共有し、同じこどもには同じ関わり方を徹底している。支援開始前・終了後には必ず職員間で打合せを行っている。	高い満足度を維持するため、現在の情報共有と打合せの運用を標準化し、新任職員の着任時にも同水準の関わりが再現できるよう手順を明文化する。
2	職員間の連携と、日々のミーティングによる業務改善が機能している	毎日の職員ミーティングで環境・体制整備の問題点や課題、解決策について話し合いを行い、PDCAサイクルに広く職員が参画している。	話し合いの内容と決定事項を記録として蓄積し、年間を通じた改善の経過が振り返られるようにする。
3	研修・教材研究を通じた療育の質の向上に取り組んでいる	研修を受講する機会の確保にとどまらず、療育に必要な教材研究にも業務時間を割いている。	研修や教材研究で得た知見を事業所内で共有する機会を定例化し、個人の学びを事業所全体の支援力に還元する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域や他のこどもとの交流機会が少ない	放課後児童クラブや児童館との交流、地域の他のこどもと活動する機会について、保護者評価で「はい」が6/21件にとどまり、「わからない」も7件あった。事業所行事への地域住民の招待等、地域に開かれた事業運営についても職員自己評価で「いいえ」が多数を占めた。事業所内での支援に注力する一方、地域資源との接点づくりが後回しになっていたことが要因と考えている。	放課後児童クラブ・児童館等への働きかけを行い、年間行事計画に地域との交流機会を位置づける。まずは事業所行事への地域住民の招待できる方法を考える。
2	家族が参加できる機会を設けているが、保護者のニーズに対して回数・内容が不足している	利用することもその家族が参加できるイベントを開催し、家族間で情報交換ができる機会を設けているが、父母の会の活動支援や保護者会等による保護者同士の交流について、保護者評価で「はい」は11/21件にとどまった。家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）についても11/21件であり、自由記述でも「保護者と子供のイベントがあればいい」との声が寄せられている。現状の開催は限られた回数であり、保護者同士が交流する時間を意図的に組み込んだ内容にはなっていないことが要因と考えている。	イベントの開催回数を増やすとともに、保護者同士が交流できるプログラムを意図的に組み込む。あわせて家族支援プログラムの開催についても検討し、周知していく。
3	事業所の取組が保護者に十分に伝わっていない	非常災害に備えた避難・救出訓練について「わからない」が11/21件、事故防止・緊急時対応マニュアル等の整備についても「わからない」が8/21件であった。取組自体は実施しているが、実施状況を保護者へ伝える手段が不足していることが要因と考えている。通信やHP・SNS等での活動概要の発信についても「はい」が11/21件にとどまっている。	避難訓練やマニュアル整備の実施状況を、通信等で定期的に保護者へ報告する。発信の頻度と担当を定め、事業所の取組が保護者に届く状態をつくる。